

周防大島中学校 研修通信

vol.11

1/15 第2回校内研修会

1/15（木）に第2回校内研修会が開催されました。今回の研究授業は、C先生に社会科の授業を提供していただきました。関東地方の東京大都市圏の広がりテーマに日本の政治・経済・文化の中心地である千代田区がなぜ、昼間人口が多いのかを考えさせる授業でした。写真や地図、比較表など、様々な資料が授業の各展開で用いられており、生徒たちはそれらの資料に真剣に向き合っていました。社会科において、資料を読み取り、表現するという技能の向上は、生徒に身に付けさせたい資質・能力の優先度の高いものとなっています。ぜひ、毎回の授業の中で、資料を読み取る時間を設け、生徒たちにそのような力を伸ばして行ってほしいと思います。また、生徒の様々な発言をしっかりと受け止め、流すところは流し、教師と生徒との対話的な授業になっていたのではないかと思います。C先生、おつかれさまでした。

今回の研修会では、柳井市教委の中重先生をお招きし、指導助言をいただきました。次期、学習指導要領の改定の論点整理の資料の説明や生徒の「好きを育み、得意を増やす」ように教科担任が日々の授業において、できることから始めると良いという話が大変、勉強になりました。

今年度の校内研修会は終わりましたが、日々の授業改善は続きます。「主体的・対話的で深い学び」が実践できるよう、研修を深めていきましょう。

授業の基本に立ち戻る①

今回から「主体的・対話的で深い学び」の実現において、「授業の基本に立ち戻る」をテーマに授業づくりの基礎基本について記していきたいと思います。今回は、「めあて」・「課題」・「まとめ」・「振り返り」についてです。それぞれの役割としては、以下ようになります。

「めあて」：学習の見通しをもたせ、授業への意欲を高める。

「課題」：追及すべき事柄を明確にする。その時間に解決すべき事柄。

「まとめ」：追及した結果を明確にする。本時の課題に対する答え。

「振り返り」：学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる。

授業の導入を工夫して、生徒を授業に引き込むとともに、その時間でどんなことを学び、どんな力が身に付くのかが見通せる「めあて」を提示します。そして、その「めあて」を達成するために、解決すべき「課題」があると思うので、展開の中で、一つないしは二つの中心的な「課題」を解決していきます。そして、授業の終末部において、課題についての「まとめ」できるだけ生徒が中心となってい、何を学んだかを共有します。そして、最後に「振り返り」を行い、本時で学んだことを言語化して、その成果を実感するとともに、本時の学習が次の学習に転移できないか考えます。「めあて」と「課題」、「まとめ」と「振り返り」は、意味が似ていることもあり、混同しがちです。これらをしっかりと区別したうえで、授業の流れを作っていきます。裏面に参考となる図を載せておきますので、そちらも参考にしてください。

新大分スタンダードを意識した単元構想

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

1時間完結型の授業とは、どのような授業？

⇒単元構想に基づいたその1単位時間のねらいが達成される授業

⇒児童生徒にとっては、この時間は何について考えればよいのか、解決のために何をするのか、答えや結論は何か等、1時間(1単位時間)の学びが明確で、「分かる・できる」を実感できる授業

「新大分スタンダードに基づく授業改善Q&A」
(令和2年3月大分県教育委員会)より

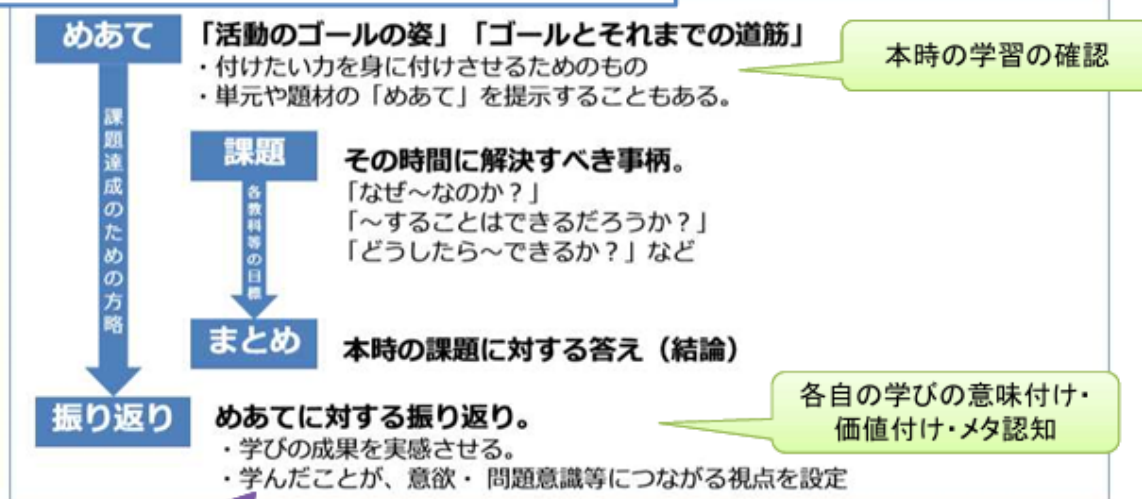
そして…

「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」は単元や題材の全体を構想する上でも、重要な要素

10

新大分スタンダードを意識した単元構想

「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定



そして…

- 「めあて」「課題」は、単元や題材全体を見通して設定する場合がある。
- 「振り返り」は短時間で毎時間で行う振り返りの他に、十分に時間をかける「単元や題材全体の振り返り」等、単元や題材を見通して位置付けることが考えられる。

11